



博物館通信

冬号



2021年1月発行 Vol.78



小惑星探査機「はやぶさ2」カプセル

サンプルリターン成功!!



© JAXA

12月6日2時半ごろ(日本時間)、小惑星「リュウグウ」で採取した砂や岩石が入っている小惑星探査機「はやぶさ2」のカプセルが、地球に帰ってきました!!



(左)火球として見えるカプセル
(右上)オーストラリアのウーメラ砂漠に着地
(右下)無事にカプセルを回収

写真:JAXAより

カプセルは「竜宮の玉手箱」と命名されたよ



小惑星探査機「はやぶさ」の後継機として2014年に打ち上げられた「はやぶさ2」は、「リュウグウ」でのミッションを終え、2019年11月から1年かけ地球へ帰ってきていました。

そしてついに、12月5日14時半(日本時間)、「はやぶさ2」は地球から22万km離れた場所でサンプルが入ったカプセルの切り離しに成功!! 6日2時28分には、カプセルが大気圏突入することによって起こる火球が観測され、帰還が確認されました。その後、カプセルはオーストラリア南部のウーメラ砂漠に着地し、ヘリコプターによる捜索で無事に回収。そして、8日午前、日本に帰ってきました!!

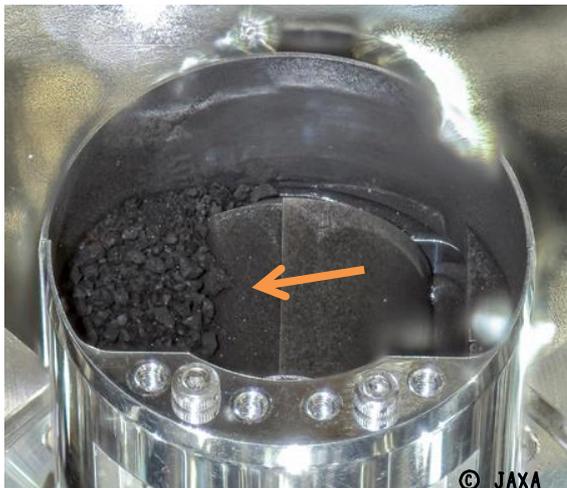
サンプルを確認!!



15日にカプセル内の容器を開け、リュウグウで行った第1回タッチダウンで採取したサンプルが入っていることが確認されました!!

サンプルは目標の量(0.1g)より多い約5.4gが入っており、砂状のものだけでなく、数ミリサイズの黒い粒もたくさん入っていました。

詳しい分析は今年6月以降に始まる予定です。さらに、NASAをはじめとする6つの研究チームにもサンプルが分けられ、世界規模で分析が行われていきます。



カプセル内のサンプル

© JAXA

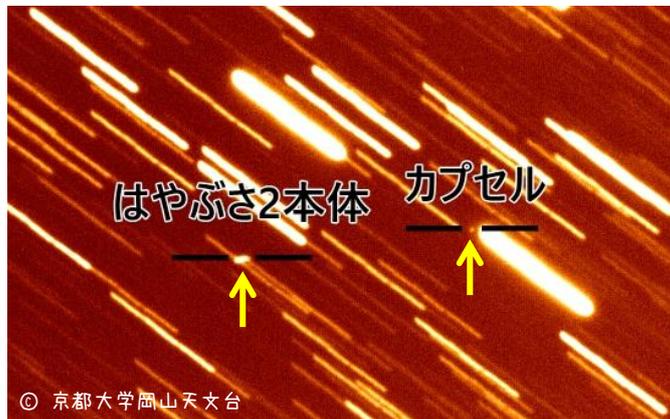


黒い粒と一緒に地球の空気とはちがうガスもカプセルの中から採取できたんだ!!
これからわかっていくことが楽しみだね♪



せいめい望遠鏡でも撮影!!

「はやぶさ2」の帰還する姿をハワイのすばる望遠鏡や日本各地の望遠鏡で撮影することに成功しました。博物館のお隣にある京都大学岡山天文台「せいめい望遠鏡」でも3.8mの大口徑をいかし、いち早く撮影に成功しました。せいめい望遠鏡では、12月4日18時ごろにカシオペア座方向に「はやぶさ2」の姿をとらえ、5日18時10分ごろには「はやぶさ2」本体と切り離された「帰還カプセル」を撮影しました。



© 京都大学岡山天文台

切り離された「カプセル」と「はやぶさ2」



まだまだ続く「はやぶさ2」の旅

はやぶさ君
©JAXA

カプセルを切り離した「はやぶさ2」は、新たなミッションへ向かいました。次の目的地は、直径が30mしかない微小惑星「1998KY26」です。「1998KY26」の自転スピードは高速で、10分で1回転していることが分かっています。そして、「リュウグウ」と同じように炭素や水が多くふくまれている小惑星だろうと考えられています。「1998KY26」への到着は、10年後の2031年の予定。「はやぶさ2」の旅は、まだまだ終わりません!! ガンバレ!!



© JAXA/千葉工大など
地球を離れるさいに「はやぶさ2」が撮影



イベント情報

※詳しくは当館HPをご覧ください

3/6
(土)

第2回

天文台ってどんなところ?
～岡山天文台講座～

※事前申込みが必要

申込み

1/30より

「ベテルギウスは爆発するか?

～せいめい望遠鏡と大学間ネットワークでひも解く超新星爆発～」

京都大学岡山天文台の職員を講師に「せいめい望遠鏡」での研究内容などについてご紹介します!!
第2回は、恒星の最期に起こる爆発的現象「超新星爆発」について紹介。



プラネタリウム冬番組 「南極ヒーリング ～この地球の果てで～」



地球で一番寒い場所、南極。過酷な気象条件の場所に今も、昔のままの雄大で美しい自然環境が残されています。そんな南極で見られる蜃気楼や太陽柱、白夜などの自然現象をご紹介します。

また、日本では限られた場所からしか見ることのできない南十字星をはじめ、街明かりのない南極の満天の星をおとどけます。プラネタリウムで神秘的な南極の世界を見に行きませんか?



岡山天文博物館

〒719-0232
岡山県浅口市鴨方町本庄 3037-5
TEL/FAX 0865-44-2465

<http://ww1.city.asakuchi.okayama.jp/museum>

